第十五講・文学的文章⑨

◆表現を味わう

　読書とは、文章に書かれていることがらを読み取ることだけがすべてではありません。表現の一つ一つをとらえて味わうことによって、受ける印象がよりあざやかになったり、想像が広がったりして、読書が深まり、楽しいものになります。

　たとえば、「ものさびしい雨が降っている。」という表現に対して、単に「雨が降っているんだ。」と思うのではなく、「雨がしとしと降っているんだな。これを書いた人は、今さびしさを感じているのだろうか。何かあったのかな。そういえば、ぼくも雨の日にさびしい気持ちになったことがあるぞ。……」というように想像を広げられるようになると、読書がより楽しくなってきます。

(1)　表現の工夫と効果を味わう

　心情や情景を効果的にえがくために、さまざまな表現技法が用いられます。

　また、ある表現がストーリーの上で重要な役割を果たしている場合もあるので、そういう表現にも目を配って読むようにしましょう。

(2)　表現の特色から作品の雰囲気を感じ取る

　文末表現（「です・ます調」か「だ・である調」か、現在形か過去形か、など）や、一文の長さによって、作品の印象は変わります。そのような表現の特色にも注目して作品を味わいましょう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

午前中の授業は平穏(へいおん)に過ぎ、給食の列に並(なら)ぼうとした時、「よお」と肩(かた)に手を掛(か)けられた。福ちゃんが博士(ひろし)を見ていた。

「*1ハカセはどっちだべ」と囁(ささや)いた。その目がかなり暗く光っているのに博士は気づいた。

「どういう意味？」

「おれにつくのか、*2ナカタの仲間なのか」

「サンペイ君とは、友達だよ。サンペイ君は嘘(うそ)つきじゃないよ」

どうして福ちゃんには分からないのだろう。サンペイ君は本当はすごいのだ。それをみんなに分かってもらえればいいのに。

「そうか、わかった」

福ちゃんは［A］席に戻(もど)っていった。

でも、その時からの、福ちゃんの行動ときたら、あっさりしたもの、なんてもんじゃなかった。（ア）クラス中をまとめて、博士とサンペイ君をのけ者にしたのだ。当時、博士は「村八分」という言葉もまだ知らなかったし、また「ハブる」という言葉もまだなかった。だから、ただ、現象として、誰(だれ)からも話しかけられず、こちらから話しかけても無視(むし)されるということだった。

博士は学級委員長だったから、よく前に立って話をまとめたりしなければならず、そんな時には本当に困った。だれも、手を挙げてくれなかったり、指してもはぐらかされたり。（イ）

一度など博士は福ちゃんの机(つくえ)の前まで［B］歩いていって聞いてみた。

「ねえ、なんで、福ちゃんは、サンペイ君を目の敵(かたき)にするわけ？　別に悪いことしたわけでもないし、おかしいよ」

すると福ちゃんはふんと鼻を鳴らして、「虫がすかん。理由はそれでいいべ」と言い捨(す)てた。（ウ）

本当にただそれだけのことなのかもしれなかった。でも、①<u>博士は*3釈然(しゃくぜん)としなかった</u>。昔みたいにみん

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

など話したいという気持ちはあったけれど、かといって②こんな不合理なことを福ちゃんに言われたからといって従っている連中なんか軽蔑してやる、というような気分もあった。

必然的に、博士はいつもサンペイ君と一緒だった。サンペイ君の本棚は博士の本棚になり、逆に博士が持っていた子供向けの科学読本をサンペイ君は喜んで読んだ。そして、天気がよければ必ず釣りをした。博士もすぐに腕を上げて、*4クチボソ相手ならサンペイ君との「先に五十匹釣った方が勝ち」マッチで勝つことすらあった。（エ）

近場での小物釣りではそのうちに飽き足らなくなって、少し下流でコイの吸い込み釣りを始めた。練り餌をつけた大きめの仕掛けで置き釣りにするから、竿を立てて並べてしまうとあとは待つのみ。しばしば博士とサンペイ君はあくまで高い空の下で河原に腰を下ろし、きらきらする水面の黄金色の照り返しを見ているのだった。

「釣りはいいなあ、本当に釣りはいいい」とサンペイ君はよく口にした。「ぼくもよくこうやって、青空の下でおじさんと釣りをしたものだよ。おじさんはね、高い空は人の気持ちを大きくするとよく言っていたよ」

*5漫然と話すサンペイ君の視線の先を、遠くジャンボ機が飛んでいくのが見えて、たしかに博士も［C］になった。

（川端裕人『今ここにいるぼくらは』）

＊１ハカセ＝博士のこと。名前の読み方からこう呼ばれている。
＊２ナカタ＝サンペイ君のこと。
＊３釈然＝疑いなどが消え、気持ちがさっぱりする様子。
＊４クチボソ＝全長八センチメートル前後のコイ科の淡水魚。
＊５漫然＝ぼんやりしている様子。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　次の段落(だんらく)は文中にあったものです。もとにもどすとしたら、どこに入りますか。文中の（ア）〜（エ）から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

　以前だったら、博士はただ自信を失い、気持ちもボロボロになってしまっていたはずだ。転校したてで言葉を笑われていた頃(ころ)もそうだった。でも、今回は違(ちが)った。サンペイ君みたいに「気にしない」ことは出来ないにしても、とにかく自分がダメなんだとは思わずにいられた。

□

問二　□Ａ・Ｂにあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　のっそりと　　**イ**　あっさりと
ウ　つかつかと　　**エ**　そわそわと

Ａ □　Ｂ □

問三　――線①「博士は釈然としなかった」とありますが、どんなことについて「釈然としなかった」のですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　福ちゃんが質問にきちんと答えない理由
イ　福ちゃんがサンペイ君を目の敵にする理由
ウ　福ちゃんに言われたことにみんなが従っている理由
エ　福ちゃんが自分のことを無視する理由

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　――線②「こんな不合理なことを福ちゃんに言われたからといって従っている連中」とありますが、「連中」は福ちゃんに従ってどんなことをしたのですか。文中から十五字で書きぬきなさい。

問五　C にあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　複雑な気持ち　**イ**　大きな気持ち

ウ　楽しい気持ち　**エ**　腹立(はらだ)たしい気持ち

問六　文中から、博士とサンペイ君の親密(しんみつ)さが増し、博士がサンペイ君の家をしばしば訪(たず)ねるようになったことが読み取れる一文をさがし、その初めの七字を書きぬきなさい。

問七　博士はどのような人物としてえがかれていますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　不合理なことに負けず、自分の思いをつらぬこうとする人物

イ　自分をごまかしてでも、みんなと仲よくしようとする人物

ウ　つい余計なことを言って、人の反感を買ってしまう人物

エ　自分の考えが定まらず、気持ちがふらふらしている人物

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十五講　文学的文章⑨

一題目

問一　イ
問二　A　イ
　　　B　ウ
問三　イ
問四　博士とサンペイ君をのけ者にした
問五　イ
問六　サンペイ君の本
問七　ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。